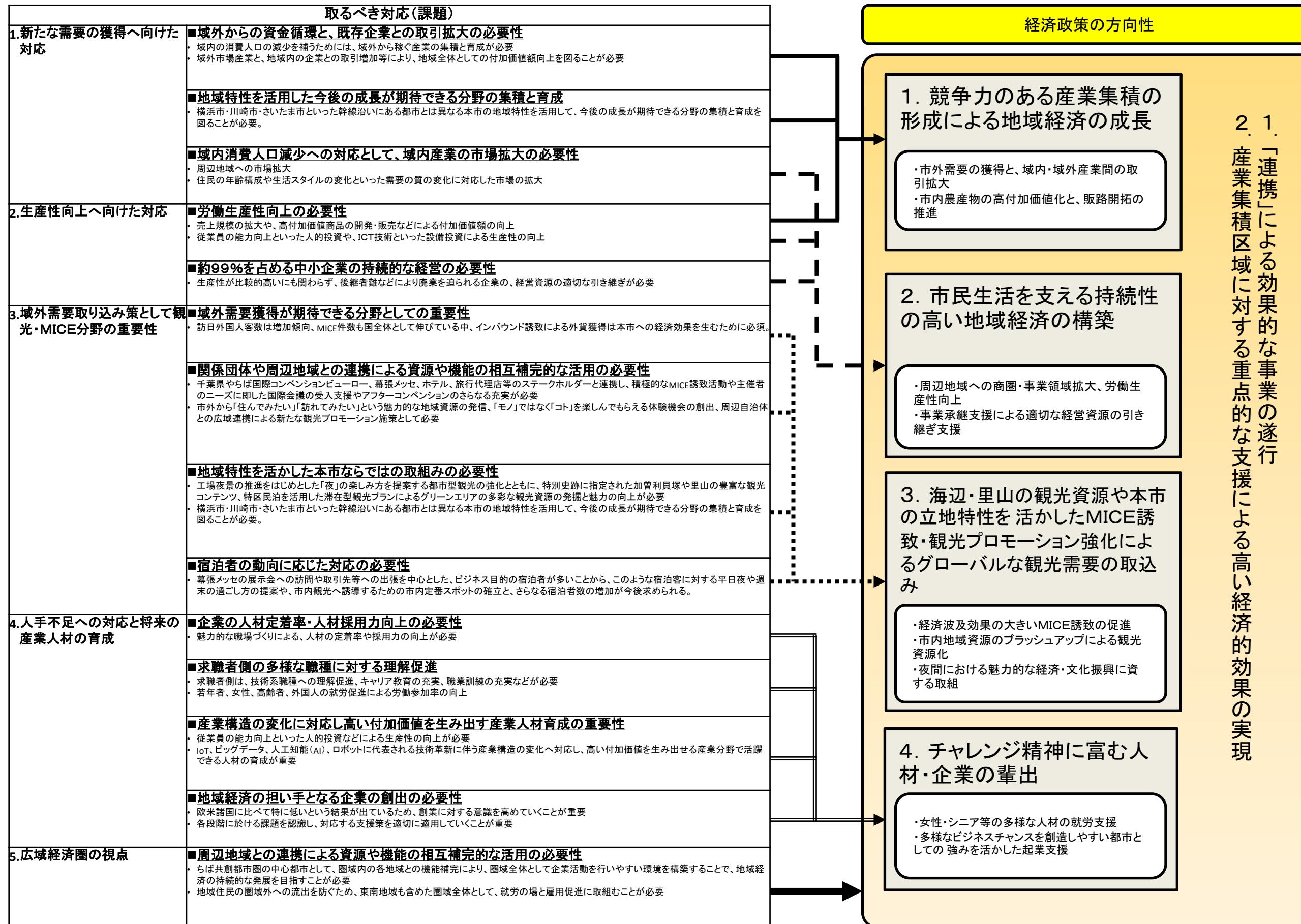


1. 千葉市産業の現状

カテゴリ	現状	図表	カテゴリ	現状	図表																																																											
1.産業全般	<p>■幹線沿いにある首都圏の他政令市との比較では産業規模が小さい</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉市の人口は約97万人、市内総生産額は約3兆円、民間事業所数は約3万2千事業所。 首都圏の他政令市の中、横浜市、川崎市、さいたま市といった幹線沿いにある都市と付加価値額を比較すると、本市の産業規模は小さい <p>■第3次産業が域内住民・周辺地域住民の消費と雇用を支えている</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民は雇用者所得の多くを域内産業（主に第3次産業）から得ている 地域住民による、「サービス業を中心とした第3次産業からの生産物」が域内消費の中心 <p>■小売業・サービス業といった域内市場産業が約75%を占めている</p> <ul style="list-style-type: none"> 付加価値額や従業者数で見ると、小売業やサービス業等の域内市場産業が約75%を占めている 従業者1人あたり付加価値額、1事業所あたり付加価値額は、製造業等の域外産業の方が高い。 首都圏の他政令市と付加価値額を比較すると、域外市場産業の割合が小さい。 <p>■産業分野別の集積状況（製造業・情報通信業・農業・食品関連・観光消費関連など）</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造業の集積 付加価値額：約1,297億円 情報通信関連業の集積 付加価値額：約1,020億円 農業・食品関連の産業の集積 付加価値額：約1,466億円 観光消費関連産業の集積 付加価値額：約1,546億円 小売業・サービス業の集積 付加価値額：約4,068億円 <p>■地域的な集積状況（臨海地域・内陸工業団地・幕張新都心）</p> <ul style="list-style-type: none"> 京葉臨海地域（新港・蘇我） 付加価値額：約1,116億円 内陸工業団地 付加価値額：約343億円 幕張新都心地区 <p>■中小企業の低い労働生産性・特に中小製造業では付加価値額の減少要因が大きい</p> <ul style="list-style-type: none"> 大企業と比較して中小企業の労働生産性は低水準 中小企業では、従業者数の減少（削減）が主な労働生産性の押し上げ要因となっている 特に中小製造業では殆ど労働生産性は上昇しておらず、付加価値額の減少が生産性の押し下げ要因となっている <p>■全国的に企業数は減少傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国の企業数は1999年以降一貫して減少傾向にある 2009年から2014年の5年間で39万者の減少となっており、また、企業規模別にみると、特に小規模企業が41万者減少している <p>■後継者不足により黒字状態で廃業する企業が多数</p> <ul style="list-style-type: none"> 休廻業・解散企業について、経営者の年齢が60歳以上の割合は82.4% 黒字状態で廃業した企業の割合は50.5%で、利益率が10%以上の企業は13.6%もある 市内中小企業の状況千葉市の企業数の内、約99%は中小企業が占めている 	<p>■ 地域経済循環図</p> <p>■ 法人市民税額の推移</p> <p>■ H21年⇒H27年 企業規模別労働生産性上昇率</p> <p>■ 休廻業・解散企業の売上高経常利益率（H29年）</p>	<p>2.観光・MICE分野</p> <p>■ 全国的に国際会議の件数は増加傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年の国際会議開催件数について、全国では前年より274件増の3,121件、千葉市は前年より12件増の43件で、都市別ランキングでは14位。 幕張メッセの来場者数は平成28年度には650万人を超え、ピーク時700万人に近づきつつある。 <p>■ 市内宿泊者は増加傾向・ビジネス目的来訪も多数</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の外国人の宿泊者数は、平成25年の約16万人泊から平成29年の約43万人泊へと拡大傾向にある。 千葉市への日本人宿泊者のほとんどは1泊であり、宿泊理由としては訪問する場所（目的地）に近いためという回答が多い。 展示会や取引先等への出張といったビジネス目的での宿泊が多く、また、観光ではイベント等を目的とした来訪が多い。 千葉市内の1泊あたりの目的別支出額は、ビジネス目的は約2.1万円、ビジネス以外の目的は約3.7万円 ビジネス以外の目的の方が支出額への貢献度が大きい傾向にある。 <p>■ 観光目的の来訪者数は近年横ばい状態</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉市への観光目的の来訪者は近年横ばい傾向が続いている。 <p>■ 臨海部の観光資源は充実・内陸部は取組みの余地が大きい</p> <ul style="list-style-type: none"> 「千葉氏」「大賀ハス」「加曽利貝塚」「海辺」という本市の歴史やルーツに根ざした地域資源の活用進めている 臨海部は千葉中央港旅客船さん橋の開港や、全国工場夜景都市協議会への加入などにより、観光資源の充実が図られてきた。 内陸部は、泉自然公園内の森林アスレチックのオープンや、特区民泊の認定開始などの新たな集客としての機会が見込まれるもの、内陸部の緑・里・農の豊富な資源を活かした取組みはまだ十分とはいえない。 <p>3.雇用労働分野</p> <p>■ 全業種で人手不足感が高い</p> <ul style="list-style-type: none"> 2009年以降、特に従業者規模29人以下の事業所の求人人数が大幅に増加 実際の雇用者数の推移について、従業者規模500人以上の事業所では約382万人増加している 29人以下の事業所では約215万人減少している 市内企業への調査結果でも、全業種で人手不足感が高い状況が続いている <p>■ 専門的・技術的職業で特に求職者数が不足している（雇用のミスマッチ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務的職業では求職者数が過剰な一方で、サービスの職業及び専門的・技術的職業では求職者数が不足しているという、ミスマッチの状況にある <p>4.人口減少の影響</p> <p>■ 今後の人口減少に伴い、需要減少と生産力不足が並行して進み、経済規模の縮小が予測されている</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口の減少は不可避であり、生産年齢人口の減少と非生産年齢人口の増加（特に高齢者人口の増加）は確実に進行する。 本市の産業構造から、人口減少に伴い、需要の減少と生産力の不足が並行して進むことにより、経済規模が縮小していくと予測される 千葉県全体でみると、人口の重心は徐々に県北西の東葛・葛南エリアの市部に移りつつある一方で、千葉市周辺市町村や県東南部での人口減少が著しくなっている。 	<p>■ 千葉市の延べ宿泊者数</p> <p>■ 国際会議開催件数の推移</p> <p>■ 市内宿泊者の来訪目的</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>来訪目的</th> <th>件数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス計</td> <td>359</td> <td>58.8%</td> </tr> <tr> <td>展示会・見本市</td> <td>69</td> <td>11.3%</td> </tr> <tr> <td>国際会議</td> <td>5</td> <td>0.8%</td> </tr> <tr> <td>打合せ、ミーティング</td> <td>112</td> <td>18.3%</td> </tr> <tr> <td>研修</td> <td>102</td> <td>16.7%</td> </tr> <tr> <td>インセンティブツアー</td> <td>1</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>納品</td> <td>2</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>視察</td> <td>10</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td>その他のビジネス</td> <td>58</td> <td>9.5%</td> </tr> <tr> <td>その他計</td> <td>252</td> <td>41.2%</td> </tr> <tr> <td>観光施設・レジャー施設（常設）</td> <td>99</td> <td>16.2%</td> </tr> <tr> <td>親族・知人訪問</td> <td>37</td> <td>6.1%</td> </tr> <tr> <td>ハネムーン</td> <td>1</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>学校関連の旅行</td> <td>7</td> <td>1.1%</td> </tr> <tr> <td>スポーツ・スポーツ観戦</td> <td>38</td> <td>6.2%</td> </tr> <tr> <td>イベント（音楽ライブ、ゲームショーなど）</td> <td>48</td> <td>7.9%</td> </tr> <tr> <td>留学</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>治療・検診</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>その他のプライベート</td> <td>22</td> <td>3.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 従業者規模別雇用者数の推移</p>	来訪目的	件数	割合	ビジネス計	359	58.8%	展示会・見本市	69	11.3%	国際会議	5	0.8%	打合せ、ミーティング	112	18.3%	研修	102	16.7%	インセンティブツアー	1	0.2%	納品	2	0.3%	視察	10	1.6%	その他のビジネス	58	9.5%	その他計	252	41.2%	観光施設・レジャー施設（常設）	99	16.2%	親族・知人訪問	37	6.1%	ハネムーン	1	0.2%	学校関連の旅行	7	1.1%	スポーツ・スポーツ観戦	38	6.2%	イベント（音楽ライブ、ゲームショーなど）	48	7.9%	留学	0	0.0%	治療・検診	0	0.0%	その他のプライベート	22	3.6%
来訪目的	件数	割合																																																														
ビジネス計	359	58.8%																																																														
展示会・見本市	69	11.3%																																																														
国際会議	5	0.8%																																																														
打合せ、ミーティング	112	18.3%																																																														
研修	102	16.7%																																																														
インセンティブツアー	1	0.2%																																																														
納品	2	0.3%																																																														
視察	10	1.6%																																																														
その他のビジネス	58	9.5%																																																														
その他計	252	41.2%																																																														
観光施設・レジャー施設（常設）	99	16.2%																																																														
親族・知人訪問	37	6.1%																																																														
ハネムーン	1	0.2%																																																														
学校関連の旅行	7	1.1%																																																														
スポーツ・スポーツ観戦	38	6.2%																																																														
イベント（音楽ライブ、ゲームショーなど）	48	7.9%																																																														
留学	0	0.0%																																																														
治療・検診	0	0.0%																																																														
その他のプライベート	22	3.6%																																																														

2. 取るべき対応(課題)と経済政策の方向性



1. 競争力のある産業集積の形成による地域経済の成長

- ・市外需要の獲得と、域内・域外産業間の取引拡大
- ・市内農産物の高付加価値化と、販路開拓の推進

2. 市民生活を支える持続性の高い地域経済の構築

- ・周辺地域への商圈・事業領域拡大、労働生産性向上
- ・事業承継支援による適切な経営資源の引き継ぎ支援

3. 海辺・里山の観光資源や本市の立地特性を活かしたMICE誘致・観光プロモーション強化によるグローバルな観光需要の取込み

- ・経済波及効果の大きいMICE誘致の促進
- ・市内地域資源のブラッシュアップによる観光資源化
- ・夜間における魅力的な経済・文化振興に資する取組

4. チャレンジ精神に富む人材・企業の輩出

- ・女性・シニア等の多様な人材の就労支援
- ・多様なビジネスチャンスを創造しやすい都市としての強みを活かした起業支援

3. 課題～政策の方向性～重点分野～主な事業展開について

